

## 第4回定山溪観光魅力アップ構想検討会議

### 議事要旨

#### ■開催概要

日 時：平成26年6月19日（木）13：00～15：00

場 所：定山溪まちづくりセンター集会室

参加者：橋場委員、長谷川委員、濱上委員、濱野委員、古川（雅）委員、古川（善）委員、山田委員

（欠席：金川委員、佐藤委員、布村委員、松田委員）

事務局 札幌市 高野、高松、札幌、西

（株）KITABA 酒本、内匠、小川

#### ■意見交換

- ・奥座敷がどういったものか正確に把握していないため、はっきり見えてこないところもあるが、「脱・奥座敷」というのは、温泉地から温泉観光地を目指すというイメージで捉えている。
- ・その時、どこに発信していくのか考えると、道外・海外を意識したものになってくるのではないかと思う。
- ・今、黒岳などにヨーロッパからの観光客が増えてきている。世界基準で発信できるような、その土地らしさというものを発信することによって、世界へのアプローチや発信力が出てくるのではないか。
- ・「和」や「日本らしさ」は外国にないものであるが、札幌近郊にそれらを売りにしている地域がないので、定山溪で発信するとインバウンド客に響くものになるのではないか。
- ・消費の8割は女性や高齢者の方なので、女性の方に意見を聞いて響くものを考えていきたい。
- ・今までの定山溪の温泉の魅力を再開発・再構築して行ってほしいが、奥座敷だったということに大事にしなければならない。
- ・もう一方で、周辺の魅力を活用して、ブランドを高めていくことが必要となる。
- ・どうしても、海外に目が行ってしまうが、札幌市民をしっかりと大事にしていくことを忘れてはいけないと思う。日帰り客が立ち寄って定山溪のよさを発信してもらうことが大事だと思う。
- ・奥座敷とは、本来「奥の方にある家族のプライベート空間」という意味があるらしい。
- ・今までの奥座敷は宴会というイメージが強かったが、本来の意味合いは目指すべきイメージと合致しているのではないか。
- ・家族やプライベートで来ていただけるような、様々なニーズに合った、本来の意味の奥座敷を目指していくべきだと思う。
- ・今まで使われてきた宴会的な奥座敷のイメージからは抜け出した方がよいと思う。
- ・現状分析に「+αの魅力の欠如」と書かれているが、欠如ではなく、活かさきれていないという方が適切だと思う。

・アジア圏の観光客は、美しい自然や温泉の泉質、おもてなしに魅力を感じて来ており、感動を持って受け止めている。

・温泉街だけでなく、1泊滞在型から連泊・長期滞在型になって楽しむことができる仕組みをつくっていく必要があると思う。

・定山溪は札幌駅からの送迎はあるが、高齢者の場合は自宅からの送迎があると来やすい。

・核家族化しており、高齢者にとっては仲間が家族のような存在になっているので、従来の奥座敷のまま、宴会で楽しむことも必要だと思う。

・定山溪に来たいが、情報が少ないため来ることができない市民も多くいる。

・パンフレットには美味しそうな情報や価格の情報が載っていないが、札幌市民はそういった情報を求めている。

・奥座敷とは、本来「住居の奥の方に位置する座敷」という意味らしく、気の置けない間柄、限られたお客さんを招く場所というニュアンスがあったようである。

・今は都市の近くにある温泉、都会の喧騒を離れた場所として使われている。

・せっかく奥座敷という言葉が浸透しているので、「脱・奥座敷」ではなく、「新・奥座敷」、「真・奥座敷」というキャッチコピーがよいのではないかな。

・その際、限られたお客さんとは、札幌市民の家族も含まれるのではないかな。

・今ある定山溪の自然や既存の建物は、修復が必要ではあるが、活かさない手はない。

・そこから定山溪のオリジナルが出てくると思う。

・登別は地獄谷がシンボルではあるが、定山溪のシンボルはない。今あるものをもっとブラッシュアップしていくことが必要だと思う。

・もっとシンプルに、それぞれでおもてなしをすることで、魅力アップや+αの魅力になる。

・個人的には、札幌市民として奥座敷を守るべきだと思う。

・札幌圏は道内の人口の約半数を占めているので、市民を大切にすべきだと思う。しかし、道外・海外からの集客は必要になってくるので、両輪で進めていくことが必要なのではないかな。

・みなさんの意見をまとめると、団体型の宴会という意味の奥座敷のイメージは脱したいが、真意の奥座敷というイメージは大切にしたいということではないかな。

・札幌の喧騒を離れたところの奥座敷というイメージや、年配の方がゆっくりできるという意味の奥座敷は必要ではないかな。

・宴会型がダメだということではないと思う。人間関係が希薄化している中で、みんなが集まってコミュニケーションをとることが必要とされていると再認識されている。

・宴会型と平行して、道外・海外からの中長期滞在型にも対応していくべきではないかな。

・奥座敷という言葉は高貴な言葉というイメージがある。札幌の奥座敷というすばらしいキャッチフレーズをずっと大切に使うべきだと思う。

- ・定山溪のホテルの若手経営陣は本当に努力され、素晴らしいと思う。ふる川さんは和風を大切にされ、素晴らしい。
- ・宿泊や日帰り温泉の利用者でない場合、ホテルのロビーに入っていくことに抵抗を感じる市民は多いと思う。もう少し気軽に入ることができたらよい。
- ・頻繁に定山溪に来ているが、三笠公園でパークゴルフができることを先ほど知った。
- ・18ホールあり、無料で利用できるなので、ぜひ来ていただきたい。
- ・市民に情報が行き届いていないため、定山溪には何もないと思われてしまっている。
- ・八剣山の方にもパークゴルフ場があるようだが、遠くて行きづらい。
- ・八剣山のパークゴルフ場は景色がよいので、ぜひお越しいただきたい。
- ・送迎バスなど、八剣山の方面へのアクセスがよくなるとよい。
- ・旅費を安く済ませたい団体もいれば、贅沢に過ごしたいというグループもある。
- ・高齢者のグループで旅行に来る際、到着日に色々なところに立ち寄り、帰る日にはどこにも寄らないことが多いのだろうか。
- ・今までは、チェックアウト後にすぐ札幌へ帰ることが多かった。しかし、帰りにも色々立ち寄りするような企画も立てたいと思う。
- ・高齢になると、札幌駅のバス乗り場まで行くのも大変なので、自宅近くまで迎えに来てくれると、他との差別化が図れると思う。そういったことをしてくれると、ロコミで市民に評判が広がると思う。
- ・紅葉ゴンドラはやっているが、春紅葉などをゴンドラで楽しむことはできないのか。
- ・春もゴンドラから見るとはたくさんあるし、小樽・朝里方面の景色もきれいであるが、どのくらいの集客が見込めるかが問題である。
- ・やっていただけるならば、大人数で行くことはできる。
- ・今までに無いものを新しく企画することが面白いのではないか。
- ・紅葉ゴンドラも4年目になり、人気で利用客も増えている。
- ・バスに乗って車窓から春紅葉を見るだけでも喜ぶ方は結構いるが、ゴンドラに乗ることができると、「定山溪は素晴らしい」、「札幌国際スキー場はこんなによい場所なんだ」と知ってもらえることができる。
- ・春紅葉は来週で終わるが、札幌市の協力もあり順調に回っているので、ぜひ乗っていただきたい

い。

- ・バスの送迎は個人宅までは無理だとしても、地域まで来てもらえると、だいぶ違う。
- ・今までは、ホテルの社長にお願いして、留萌などから送迎に来てもらっていた。もちろん送迎費はお支払いした。
- ・若い時はよいが、高齢者は札幌駅まで行くことができない人が多い。
- ・札幌市民、特にこれから増える高齢者の誘客を目指すには、市民の立場で考えたアクセスの向上が必要だということと、温泉街に来てから活動的に周ることができるよう、周辺へのアクセスの向上も必要だということである。
- ・高齢者のグループは春や秋にバス旅行などをする人が多いので、札幌サンプラザのバスパークを利用している。
- ・観光魅力アップに向けたアプローチとしては、「札幌の奥座敷」というフレーズは大事にした方がよいということと、今までの奥座敷とは違った「温泉街+α」というのがこれからの新しい奥座敷ということで表現を変えれば、アプローチとしてはよいということかと思われる。
- ・目指す将来像としては、「そぞろ歩きが楽しい温泉街」と、「エリアとしての顔がある定山溪」ということでみなさん一致していたかと思う。
- ・しかし、「エリアとしての顔」の部分はもう少し具体的に表現してもよいのではないかということかと思う。
- ・他の観光地にある顔出しパネルは結構人気がある。かっぱんを利用して作ることはできないか。また、古い建物の前に設置することで寂しい雰囲気のカバーすることができるのではないか。
- ・撮影スポットが必要ということかと思う。
- ・ワークショップの留学生から足湯にタオルがないことを指摘されているが、サインが必要だと思う。
- ・海外の留学生も、韓国の方はパンフレットと同じような構図で撮影したいといった話をしていたり、国によって趣味嗜好がちょっとずつ違っていた。
- ・エリアとしての顔とはどういうイメージなのか。例えば秋の紅葉など、そういったイメージで理解してよいのか。
- ・エリア全体をどう表現するのか我々も迷っていて、八剣山の果物のイメージ、紅葉、雪、緑などの自然イメージがたくさんあるので、どのように表現しようかというところが固まっていない。

- ・ただ、温泉街とエリアの両方の魅力をしっかりと形成していきたいという考えである。
- ・若いファミリーは果物狩り、高齢者のグループは温泉や足湯など、エリアの魅力といっても幅が広いので、ターゲットによってエリアの魅力の見せ方を工夫していくと、面白いかもしれない。
- ・今まで定山溪というと、定山溪温泉を直結してイメージしていたと思うが、今ここで定義している定山溪は広い意味合いで捉えている。
- ・例えば、ニセコといえば何となくイメージがつくように、定山溪にもエリアとしての顔ができればよいという考えである。
- ・そうすると、周辺へのアクセスや魅力に関する情報などが具体的にないといけないと思う。
- ・札幌国際スキー場のゴンドラや、八剣山ワイナリーなどかなり広範囲だが、コースの案内ができていないと、今まで行ったことのない人も行きたくなると思う。
- ・定山溪エリア、小金湯エリア、豊平峡エリアの3つのエリアを定山溪温泉郷と総称したとして、3箇所とも泉質が異なるため、高齢者が湯めぐりを楽しんだり、湯治のようにゆっくりとすることができるのではないかと。しかし、実際ニーズはあるのだろうか。
- ・そうすると1泊ではなく、2泊以上必要になってくる。
- ・定山溪のホテルの経営陣は、すでに定山溪を広域で定山溪温泉郷というように捉えている。
- ・パンフレットもそのように作られている。ただ、札幌市民にはその認識が薄いので、宿泊ならば定山溪温泉で1泊、日帰りならば豊平峡温泉でカレーを食べて完結するというパターンができている。
- ・湯めぐりなどの楽しみ方が市民や道外・海外に伝わっていないのではないかと。
- ・顔というのは広域エリアでの特徴や魅力のことであると思うが、ぼやけている。ニセコのような理想的だが、なかなか難しい。
- ・ほとんどの人は定山溪といえば温泉と答えるだろう。
- ・様々なアクティビティや果樹園など、みなさんが頑張ってきたのでマスコミへの露出も多くなってきている。
- ・ニセコも何十年もかけてブランディングしてきているので、定山溪も10年後を目指して、しっかりと顔をつくっていく必要がある。
- ・定山溪温泉郷という名前で、小金湯や豊平峡は納得してくれるのだろうか。
- ・今日ですべて決めるというわけではないので、また改めて議論させていただきたい。

・新しい奥座敷、エリア全体の魅力アップ、温泉街としての魅力アップという所を具体的にするために基本方針5つを掲げている。

・定山溪の観光魅力アップに向けた課題として、今までみなさんから温泉街に拠点性や周遊性がない、撮影スポットのイメージが弱いという意見が出されていたことから、茶屋やカフェの必要性、湯けむり、施設の老朽化などの課題があげられた。まず、温泉街の魅力アップについて「温泉街らしさや温泉街のにぎわいづくり」という方針を掲げ、既存の施設や観光スポット等の環境整備、温泉街や拠点の創出、国道沿道と定山溪中央線の景観形成、温泉街における回遊促進メニュー等の創出、年間を通した集客イベント事業の推進と5つの項目に分けて整理しているが、足りないことなどがあれば、意見を出していただきたい。どちらかという、ハード系の課題になっている。

・そぞろ歩きと掲げているが、実際温泉街はそぞろ歩きできる環境にあるのか、現状としてどのくらいのお店などがあるのか。

・そぞろ歩きはすごく難しい課題だと思う。週末の夜に浴衣を着て歩いている人が多いわけでもなく、月曜日の昼間に歩いた時も数回観光客を見かける程度だった。

・ハード整備もちろん必要だが、店を増やすなどソフト面まで取り組むとなると、大変そうなイメージである。

・工夫の仕方としては、各ホテルに魅力があり、そこにお客さんが行き来するというだけでもよいと思うが、温泉街らしさという、浴衣を着てふらふらと店を点々とするイメージなので、現状から考えると結構大変な作業だと思う。

・お客さんの流れもこれから少しずつ変わってくると思うが、定山溪で商売をやりたい人が出てくると思う。カフェ崖の上やパン屋さんなど遠隔だがお店を開きたいと活動している方が出てきているので、イメージとしてどう作っていくかが重要だと思う。その一環として空き店舗で商売をやりたい人が増えていくと思う。

・先日のチカホイベントの松橋氏の講演時に、森の調でマルシェをやっていることを初めて知ったが、各ホテルで個性の違うマルシェをやっていると、歩く必然性が生まれるのではないかな。いきなり大きいお店を作るのは厳しいと思うので、そういうことから始めていかなければならないのではないかな。

・湯めぐり手形をつくって少しでも歩いてもらおうと取組を行った。やはり温泉地で働いている立場としては、浴衣を着てそぞろ歩きをしてもらうことが理想であるが、現実的に厳しいという気持ちもある。

・いますぐ簡単にできることという、女性に綺麗な浴衣を着てもらおうと、それだけで歩くようになるのではないかな。やはり、普通の浴衣より綺麗な浴衣を着てヘアセットをすると、見てもらいたいという気持ちから出歩くとと思う。

・しかし、出歩く人に「どこに行けばよいか」と聞かれても、自信を持って答えることが難しい状況なので、ターゲットごとに案内できる魅力があるとよい。

・留学生からの意見にもあるように、温泉たまごのスペースが小さく先客がいると楽しむことができない。そういった所を見なおしてブラッシュアップし、告知をしっかりと行うことでよくなるのではないかな。

・ハード面だけでなく、ソフト面の問題ではないか。色々な所を歩いてもらう工夫は行っているが、新たに浴衣を着ている方は特定のサービスを受けられるようなお店を増やしてはどうか。そうすると浴衣を着て歩くことの必然性ができる。

・川湯温泉では女性限定で色浴衣を選べるサービスがあった。また、京都では舞妓体験ができたりと、別人になって歩くことができると非日常を体験することができ、その方々が温泉街を歩くことで広告塔になるのではないかな。

・私自身も京都に行った時に、着物を着ているとサービスを受けられる店があったので、レンタルしてまちを歩いた。別人になって歩くのが楽しいし、高齢者にとっては元気や若さの秘訣になる。高齢者にそういう体験をさせてあげたいと思う。そういったシニアプランなどを作って欲しい。

・商売をやる方としても、人が歩いている所だと勝算があるのではないかな。そのためには定山溪にたくさん人がいるという感じが必要で、ある意味サクラを作るようなイメージである。

・少し離れた所に繁盛しているパン屋があるが、そういう人たちが温泉街に店をつくって展開してくれればよいのだけれど、そうならないということは、温泉街に人が歩いていないということや、ホテルの一館完結型による人の出入りの少なさが原因だと考えられる。

・温泉街をハード面で形成していくには、ホテル内の飲食店を外に出さなければならないのではないかな。また、アーケードにして冬場にも歩きやすいようにするなどしなければ、そぞろ歩きは難しいのではないかな。そこを整備した上で、浴衣特典の店などのインセンティブにより、ますます出歩く人が増えると思う。

・10年という計画の中でかなりハードに力を入れて取り組むという認識を持ってよいのかな。

・本構想では、そういう意気込みを持っていかなければならないと考えている。温泉街の街並みを整える、都市計画をするくらいの勢いでやっていかなければならない。

・被災地である宮城県山元町で札幌市が都市計画をやっているが、そのくらいの観点で取り組まなければならないし、市の政策判断として大規模な投資をするという決断がなければ無理だと思う。入湯税2億では済まないくらい投資しなければ、中途半端なものになってしまう。

・みなさんの協力を得なければならないところもあり、ホテルから飲食店を外に出していただくことをお願いすることになるかもしれない。

・拠点の創出や景観形成の具体的なイメージがあれば、ご意見をいただきたい。

・温泉街からビューホテルの方まで、川沿いの散策路が整備されるとよい。上町は正面玄関が国道沿いで味気ないため、川沿いの散策路に直接出ることができるようになることが夢である。

・魅力は結構あるが、活かしきれていない。今日もふる川さんの前でバスを降り、月見橋から見える溪谷美や源泉公園などを見てきた。しかし、宿泊客のほとんどが夕方にバスで到着し、チェックアウト後はそのまま帰るため、それらの資源を見ていない。

・温泉の入り口に大きな駐車場を整備し、それ以降は歩いてホテルまで行くようにすると、湯の滝や源泉公園、橋からの溪谷美などを見ることができる。現状はそういう体験をしておらず、ホテルの中だけで食事を済ませ、すぐ帰るため、見るべきものを見ていない。そういう体験をしたら、「温泉にきたな」と実感するのではないか。

・下町の道路も、もっと狭くてよいのではないかという意見もあったが、既存のホテルのキャパシティの関係もあり、ホテル前までバスがつけられるようにした。しかし、黒川温泉では温泉街に車が入っていけないようになっており、近郊に大型の駐車場がたくさん整備され、多くの人が歩いている。

・定山溪もそういう選択肢をとるのも一つの手だと思うが、もちろん高齢者や障害者の方の対応はしっかりと行う必要がある。

・川辺を歩いてもらうのは本当によいと思う。川辺に畳を置いて、その上でお茶会ができれば最高に喜んでいただけたらと思う。もちろんダムなどの協力が必要になると思うが、そういった夢を定山溪で実現できれば最高だと思う。

・今日入ったラーメン屋では、お客さんが全員白人系の外国人で驚いた。親子でとても楽しそうにしていた。

・最近は本当にそういった方が増えてきている。

・店主の方に定山溪に関する要望を聞いたら、温泉街にお店を出して欲しいという要望があった。もちろん駐車場やトイレが必要とも言っていた。

・駐車場とトイレは必ず言われる。観光協会にもトイレを借りに来るお客さんが多く、お客様用にはなっていないが、貸すようにしている。

・ハード整備となると大変なことになるかと思うが、通りに店が面しているとよいと思う。登別もかなりお店が減ってきたが、そぞろ歩きができる温泉街としては北海道で唯一残っている場所なので、そういうものが定山溪にできればよいと思う。

・お客さんがいないと難しいところがあるので、新規事業者を助けてあげられるようなシステムを、まちとして考えていかなければならない。

・そぞろ歩きという目標を掲げた時に、一つはまちを巡ってもらう仕掛けが必要で、まちを歩く



人が増えることで新しいお店が増えること。もう一つは、温泉の入り口に車を停めて、温泉街まで歩いてもらい体感してもらうこと。さらに川沿いの散策路の整備と、様々なイメージが膨らんだ。

- ・一度実証実験を行ってはどうか。数日から一週間完全に歩行者天国にして、露店を並べ、浴衣を着た人が行き交うようなイメージで。

- ・かっぱ祭りの時に歩行者天国にしたことがあった。

- ・今回の事業で、東京の「散歩の達人」という雑誌の編集長に、定山溪の温泉街の形成についてインタビューを行ったが、橋場さんが言ったように、最初のきっかけづくりについて話があった。

- ・温泉街ではなく商店街の話ではあるが、1~2軒のカフェがイベント的に近所の人と一緒に露店を出したことがきっかけに、今では何千人もの人が訪れるまちとなった。また、北千住は銭湯めぐりで人が増えている。

- ・荻窪の方では、茶散歩といって雑貨屋などでも無料でお茶が飲めるようになっており、ヤカンの絵がぶら下がっているお店で実施している。そういった所に首都圏の若者が集まってきている。

- ・実証実験をやってみるのはよいと思う。

- ・1泊で来た市民が1日だけお店を出せるような体験ができるとよい。

- ・札幌市の農政課と話をしたが、札幌近郊で採れた農産物を引き取って定山溪で販売したり、南区にある直売所にかっぱバスで立ち寄るなど、新しい展開を実証実験的にできると面白いと思う。

- ・そぞろ歩きに向けて実験的に取り組み、ハードを組み合わせるとよい。

- ・小樽の雛めぐりも結構人が歩いている。寄贈してもらった古い雛人形を色々な施設に展示し、スタンプラリーで巡るようになっている。

- ・一般の方はホテルに入りづらいのだろうか。

- ・結構気軽に入っている。

- ・宿泊していないホテルに入っていくのは、かなり抵抗感があると思う。入ってはいけないという感覚になると思う。

- ・トイレを自由に使えたりすることにより、開放感が生まれると思う。

- ・浴衣を着た人がホテルに自由に出入りできるような実験が考えられる。

- ・道内にそぞろ歩きができる温泉地は少ないので、定山溪でそぞろ歩きができると顔になり得る

と思う。そういう目玉の作り方ができるとよい。

- ・浴衣のコスプレとかもあるかもしれない。
- ・洞爺湖はコスプレで有名になり、イベント時は全国から人が集まっている。
- ・留学生は浴衣の試着体験をすごく喜んでいて。
- ・資料6の「新たな魅力創出」について、ご意見があればいただきたい。
- ・ゴンドラもそうだが、パークゴルフが無料だということもPRすべきである。宿泊日に早く来てパークゴルフをやってからチェックインするという旅行プランも考えられる。
- ・色々調べていたが、パークゴルフのことは知らなかった。
- ・今はガソリン価格が高騰しており、札幌中心地から1時間圏内の定山溪は狙い目である。
- ・パークゴルフは子どもから高齢者まで楽しむことができる。
- ・最近感じていることは、さっぽろ湖を訪れる人がかなり増えてきている。第一展望台から綺麗な湖面が見え、そこに色鮮やかなカヌーが2隻浮かび、とてもきれいで観光客が写真を撮っていた。
- ・また、さっぽろ湖での冬のワカサギ釣りは知られざるスポットだったが、ホームページに載っているため、有名になってきた。体が冷え温泉の需要も増えると思う。また、水がきれいなので、他のワカサギと比べて美味しいという声を聞く。
- ・まだわからないが、四季を通してのさっぽろ湖は、定山溪の新しい魅力になるかもしれない。
- ・自然に恵まれているからこそ、情報をどんどん発信していけば魅力になるのかもしれない。
- ・札幌市民の水なので、イメージを含め難しい部分もあるのかと思う。
- ・水道局からの許可が降りないと聞いていたが、よくよく聞くとそうではないらしい。
- ・水道局は積極的にはお薦めすることはできていないのではないか。
- ・河川の利用をもっとできないか。例えば月見橋の下の川を掘り下げてカヌーを通れるようにするなどできないか。動力を使わなければ、大して問題でないと思うが。
- ・林野庁の問題だが、森林の利用もできるようになるとよい。百松橋の方に行けるとよい。
- ・登山好きな人が言うには、定山溪はベースキャンプに最適らしい。
- ・新たな魅力はたくさんあり、ワカサギ釣りのように増えてきている。
- ・もっと情報発信をする必要があるということだろうか。

- ・新しいものを作るというより、あまり知られていない今あるものを掘り起こして、市民に PR した方がよいと思う。
- ・仕方がない事かもしれないが、パンフレット内の情報が全て同じ大きさなので、大きく取り上げるものをつくり、紙面のスペースや配分を変えてみるということも効果があるのではないか。
- ・発信の仕方を工夫し、見せたいものを大きく取り上げ、次回は別のものを大きく載せるなどしていくことが効果的でないか。
- ・旅行雑誌ではないが、今回の特集を組む感覚で見せていくとよいのではないか。
- ・予算は限られているが、ターゲット別の情報発信も考えられる。
- ・今はそれぞれ楽しみ方が多様化してきているので、ネットで発信していくことも考えられる。
- ・男女別や年齢別に分けるとよいと思う。今あるパンフレットは、どこを見たらよいかわからない。
- ・シニア編などはっきり分かれていれば、すぐに自分が見るべきパンフレットがわかってよい。特に高齢者にはありがたい。
- ・心の里定山の手書きのチラシもすごく親切でわかりやすい。
- ・それも心の里定山に来て、初めて情報を知ることができる。行かなければ情報が入ってこない。
- ・本日のこれまでの意見を振り返ると以下のような意見が出された。
  - 観光魅力アップに向けたアプローチについて、「脱」奥座敷ではなく、仮に「新」や「真」と今までの奥座敷に+α で魅力をつくっていくというイメージであることと、定山溪温泉郷といったように広域での連携が基本的な考え方。
  - 目指す将来像としては、そぞろ歩きができる温泉街と、エリア全体としてもっと楽しめる魅力をつくるということ。
  - 基本方針 1 の「温泉街らしさや温泉街のにぎわいづくり」としては、ハード整備だけでなく、ソフトからアプローチをしていくこと、ホテルの店が外に出ていくこと、実験的にそぞろ歩きしてもらい新たな店ができるきっかけをつくること、温泉街の入口に駐車場とトイレを整備し温泉街を体感してもらおう仕組みをつくること、川沿いの散策路の整備など。
  - 新たな魅力の創出としては、無理に何かをつくるのではなく、今あるものを情報発信していくということが必要である。